

地域の危険性などさまざまな防災情報を掲載

総合防災マップ



地上デジタルテレビ
データ放送

NHK総合テレビのデータ放送で河川水位の状況や避難情報等をご覧ください。
(dボタン→「防災・生活情報」)

気象警報や避難情報等を配信

メール配信サービス



リアルタイム高島
(高島市)
real.takashima@sg-m.jp



しらががメール
(滋賀県)
entry@pref.shiga-info.jp

インターネット



滋賀県防災ポータル
(滋賀県)

滋賀県 防災ポータル 検索

自分の身を守るため

災害に関する情報を

入手しましょう！

今年9月20日に、台風第16号の大雨の影響により、市内の河川（鴨川・石田川）の水位が上昇し、今津・安曇川・高島の一部地域に避難準備情報を発令しました。

風水害時には、気象警報や雨量、河川の水位などの情報を確認し、予想される被害に備えて、早めの避難を心掛けておくことが自分の身を守ることに繋がります。

これらの情報については、インターネットやメール、地上デジタルテレビのデータ放送などで入手できます。また、自分の住んでいる地域の危険性については、昨年お配りした「総合防災マップ」で確認できます。ぜひとも最新の情報を積極的に入手するよう心掛けてください。

総合防災局

☎(25) 81333

交通事故発生状況

高島警察署 ☎(22)0110

(平成 28 年 9 月末現在)

内 容	件 数	前年比
人身事故発生件数	65件	-22件
死者数	0人	-2人
傷者数	92人	-25人

発生場所	件 数
マキノ	8件
今津	11件
朽木	3件
安曇川	13件
高島	14件
新旭	16件

火災・救急・救助件数

消防総務課 ☎(22)5401

(平成 28 年 9 月末現在)

火 災	件 数	累計 (1月~)
建物	0件	10件
車両	0件	2件
林野	0件	0件
その他	1件	16件

救 急	件 数	累計 (1月~)
交通事故	21件	136件
一般負傷	34件	283件
急病	137件	1310件
その他	29件	212件

救 助	件 数	累計 (1月~)
火 災	0件	0件
交通事故	3件	13件
水難事故	0件	3件
その他	1件	9件

環境放射線測定結果

原子力防災対策室 ☎(25)8133

9月平均値 (平日測定)	前月平均値
マキノ (マキノ支所前駐車場) 0.066 μ Sv/h	0.063 μ Sv/h
今津 (今津支所玄関北側) 0.058 μ Sv/h	0.058 μ Sv/h
朽木 (朽木支所前駐車場) 0.060 μ Sv/h	0.069 μ Sv/h
安曇川 (安曇川支所裏駐車場) 0.055 μ Sv/h	0.047 μ Sv/h
高島 (高島支所東駐車場) 0.051 μ Sv/h	0.047 μ Sv/h
新旭 (市役所北側玄関前) 0.058 μ Sv/h	0.055 μ Sv/h

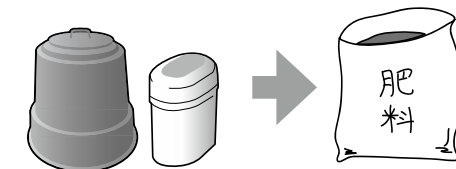
※測定地点は他に24か所あります。測定結果は、市のホームページをご覧ください。
※通常の値はおおむね0.2 μ Sv/h以下です。

家電を正しくリサイクル

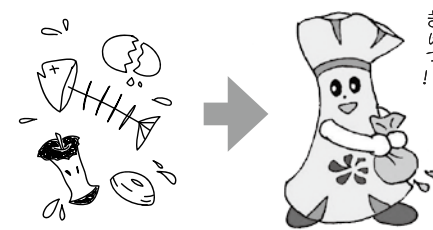


▼取り組み事例

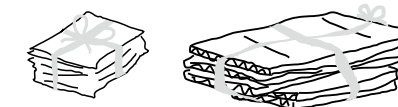
生ごみ処理機やコンポスト等を用いた堆肥化



生ごみのしっかりした水切り
～「ひとしぼり運動」～



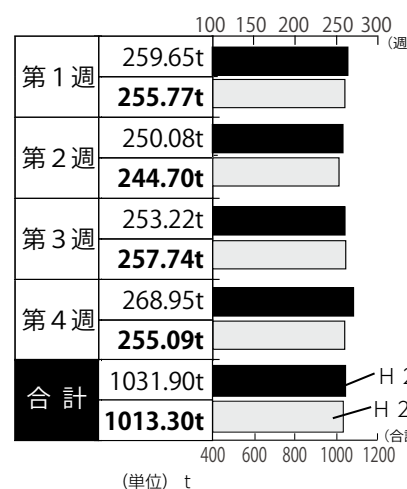
紙類の分別によるリサイクル



家庭から出される可燃ごみの中身を分析すると、「生ごみ」と「紙類」が約7割以上を占めています。市はこの2種類についてさらなるごみの減量や資源化に向け、重点的に取り組みを進めています。引き続き皆さんのご協力をお願いします。

「生ごみ」と「紙類」の減量と資源化をさらに推進中です！

9月の燃やせるごみの収集量



環境センターに収集される「燃やせるごみ」は、前年度同月に対して**18.60t(1.8%)**減少しました。

引き続き、分別や減量にご協力ください。

10月17日までの補助金申請受付状況

電気式生ごみ処理機	821件
コンポスト	437件
事業所用 (大型) 生ごみ処理機	20件

～過去の取り組みについて～

平成23年度から3年間、ごみ減量大作戦を展開し、紙ごみの減量と資源化に取り組みました。当時、燃やせるごみの中に約6割の紙ごみが含まれている組成分析調査結果（環境センターのごみピットから採取する方法）から取組目標を定め、紙ごみ減量を推進しましたが、ごみピットの中では、紙ごみは水分を吸収する傾向にあり、逆に生ごみは水分が抜けて乾燥する傾向があります。

このことから、改めて各家庭の黄色い燃やせるごみ袋から直接収集したもので組成分析調査したところ、紙ごみの占める割合は約3割（リサイクルできるものを含む）という結果になり、分析割合にばらつきが生じる結果となりました。こうしたことから、分析の捉え方が統一できておらず、目標成果が把握しにくい状況で、具体的な分析・検証には至らなかった経過があります。

今後は、よりわかりやすい方法でごみ減量や資源化の現状についてお知らせしていきます。